

令和4年度 大分市中学生オースティン市派遣事業 報告書



事業概要	P1
現地活動スケジュール	P3
現地活動内容	P4
派遣生徒報告	P13
引率者報告	P19

事業概要

■ 目的

大分市内中学生を姉妹都市オースチン市に派遣し、海外での異文化体験、現地での交流を通じて国際的視野を広げ、将来の国際化社会を担うグローバル人材の育成を目指すとともに、本事業を通じて姉妹都市間の親善を深めていく。

■ 主催

大分市国際都市交流親善（大分市）

■ 派遣先

アメリカ合衆国テキサス州オースチン市

■ 派遣期間

令和5年3月25日（土）～4月4日（火）（9泊11日）

■ 派遣生および引率者

	氏名	中学校	学年
生徒	原 亮慶	岩田中学校	1
	関 理彩子	大分市立上野ヶ丘中学校	1
	伊藤 優里	大分大学教育学部附属中学校	2
	甲斐 琴子	大分市立大分西中学校	2
	中川 大地	大分大学教育学部附属中学校	2
	井上 小夏晴	大分市立王子中学校	2
引率	吉川 貴裕	大分市企画部国際課	
	森竹 友恵	大分市教育委員会 学校教育課英語教育推進室	

※ 学年は参加時の学年

※ 応募者数 125 名。提出書類審査による一次選考、および面接（日本語・英語）による二次選考により 6 名を選出。

■ 事前説明会、事前研修等開催日程

- 1月8日（日）： 第1回事前説明会 / 第1回事前学習会
- 2月5日（日）： 第2回事前学習会
- 3月12日（日）： 第2回事前説明会 / 第3回事前学習会
- 3月20日（月）： 出発式（大分市長、教育長訪問）
- 4月12日（水）： 帰国報告会（大分市長、教育長訪問）

現地活動スケジュール

日程	発着地	時間	交通	予定	滞在先
3/25 (土)	大分市役所	5:15	専用車	大分市役所議会棟玄関前集合。大分空港へ 国内線にて羽田空港へ	ホーム ステイ
	大分空港発	7:40	JL662		
	大分空港着	9:10		ダラス・フォートワース国際空港へ (所要時間: 11時間30分) ——《日付変更線》——	
	羽田空港発	10:55	JL12		
	ダラス着	8:25		到着後、入国手続き	
	ダラス発		専用車	オースチン市へ (所要時間: 4時間弱)	
	オースチン	13時頃		姉妹都市委員会会長宅にて歓迎会参加	
3/26 (日)		終日		終日ホストファミリーと過ごす	
3/27 (月)		午前	車	英語学習 (TIEC) フードコート: Fareground にて ・ Austin Duck ツアー参加 ・ サウスコングレス地区散策	
		昼 13:30	徒歩 徒歩		
3/28 (火)		午前	車	英語学習 (TIEC) テキサス大学にてスカベンジャーハント レストラン: Homeslice Pizza にて マッカラム高校訪問・交流 (McCallum High School)	
		昼 14:00	車 車		
3/29 (水)	オースチン	午前	車	英語学習 (TIEC) テキサス州議事堂見学 スーパー: ホールフーズ (Whole Foods) にて	
		午後	徒歩 車		タウン・レイク (Town Lake) 周辺散策 バートン・クリーク・ショッピング・モール (Barton Creek Shopping Mall)
3/30 (木)		午前	車	英語学習 (TIEC) ブーロック・テキサス州立歴史博物館訪問 (Bullock History Museum) レストラン: Trudy's South Star ラサ高校訪問・交流 (LASA High School) @134D	
		昼 14:20	車 車		
3/31 (金)		午前	車	英語学習 (TIEC) 修了式&フェアウェルパーティー TIEC にて オースチン市臨時市長 Paige Ellis 氏訪問	
		昼 14:00	徒歩		
		15:00	車	裁判所訪問・見学	

日程	発着地	時間	交通	予定	滞在先	
4/1 (土)	オースチン	終日		終日ホストファミリーと過ごす		
4/2 (日)	オースチン	11:00	専用車	姉妹都市委員会による送別会参加 レストラン: The Salt Lick BBQにて ダラスのホテルへ	ダラス	
	ダラス空港	夕方		途中「Buc-ee's」にて休憩、夕食調達 ホテル着		
4/3 (月)	ダラス発	10:55	JL11	出国手続き後、帰国 (所要時間: 13時間30分) ———《日付変更線》———	機内	
4/4 (火)	羽田空港着	14:25	専用車	到着後、入国手続き	—	
	羽田空港発	16:55		JL669		国内線にて大分空港へ
	大分空港着	18:35				到着後、大分市役所へ
	大分市役所	20:00				大分市役所にて解散

現地活動内容

■ 1日目（令和5年3月25日（土））

早朝、市役所に集合後、集まった保護者へあいさつを済ませ、専用車にて大分空港へ向かったことから9泊11日の旅が始まった。

大分空港到着後、チェックインとともに、アメリカ入国に必要な書類の確認を済ませ、羽田空港へ向かった。飛行機搭乗自体が数年ぶりという生徒も多く、国内線搭乗中も既に興奮した様子が見られた。羽田空港では、多くの利用旅客で賑わうターミナルの様子に驚きながら、出国手続きを済ませ、いよいよダラスまでの国際線に搭乗した。長距離移動は全員が初めてとあって、機内では最初こそ機内エンターテインメントや機内食を楽しんでいたが、徐々に疲れた様子もみられた。



ダラス空港到着直後

約11時間のフライトを経て、ダラスフォートワース空港に到着すると、巨大なターミナルを目にしながらかに到着したことを実感しつつ、入国審査に向かった。緊張しながら臨んだが、予想に反し、審査官の方が優しく接してくれたおかげで、スムーズに入国することができた。入国後も、無事に手荷物を受け取り、専用車のドライバーと落ち合うことができ、問題なく空港からオースチンへ向かうことができた。

オースチンへ向かう道中、テキサス発祥のガソリンスタンド「Buc-ee's」にて休憩をとったが、200箇所近くの給油スタンドやアメリカンサイズのドリンクボトルなど、早速普段目にする事のないサイズ、スケールに一同驚かされた。

約4時間のバス移動でいよいよ歓迎会会場であるオースチン大分姉妹都市委員会（以下、AOSCC）クリスティ会長宅に到着すると、ホストファミリーやAOSCCメンバーらが一堂に会し、盛大に迎え入れてくれた。クリスティ会長のご主人手作りのテキサスBBQを囲みながら、生徒たちは緊張の面持ちでホストファミリーと初めて対面し、英語での会話に苦戦する様子も見



クリスティ会長宅での歓迎会

られたが、
総じてこ

れからのオースチンでの日々に心躍らせているようであった。参加者全員が自己紹介する場面では、現地の皆さんから今回の交流への想いや歓迎の言葉をいただき、生徒も堂々と自己紹介し、しっかりそれに応えることができた。

歓迎会終了後、各ホストファミリーの家庭へと移動し、長かった初日の終わりを迎えた。



歓迎会での集合写真

■ 2日目（令和5年3月26日（日））

終日、各自ホストファミリーと過ごす一日であった。

まだ慣れない環境下ではあったが、全員が体調を崩すことなく充実した日を過ごした。

■ 3日目（令和5年3月27日（月））

ホストファミリーにダウンタウン内の TIEC（英語教育機関）へ送ってもらい、これから始まる5日間の TIEC（英語教育機関）での英語授業初日に臨んだ。授業はスティーブン講師が担当し、AOSCC メンバーのアネルさんがサポートにあたってくれることになった。まず、飼っているペットや趣味、好きなアイスクリームのフレーバーなど、緊張がほぐれるようなテーマを講師が設定し、各自自己紹介を行った。その後も上手くゲームなどを織り交ぜながら、互いがしっかり英語での会話を行えるような内容



TIEC での授業の様子

で授業が進められた。途中、講師から翌日火曜日と木曜日にはゴンザレスミドルスクールの生徒が TIEC を訪れ、一緒に交流しながら授業を行う旨説明があり、ゴンザレス校の生徒に日本について各ペア3つずつ紹介するようにとの課題が与えられ、生徒たちは食べ物や文化、スポーツなど様々な分野から真剣に3つ選び、課題に備えた。最後に、クイズゲームを通じて州旗や州の花、各都市の人口などテキサス州やオースティン市について楽しく学び、初日の授業を終えた。

授業終了後、姉妹都市委員会のクリスティ会長とピートさんが昼食のためダウンタウン内のフードコートへ案内してくれた。その後の活動のスケジュールも考慮し、手軽に食べられるタコスを各自選び食べることにしたが、美味しそうに食べる生徒もいれば、苦手そうに食べたり、思ったよりも少ない量に物足りなさそうにする姿も見られた。



Duck Adventures 車両前にて

昼食後は観光案内所に向かい、水陸両用車で市内中心部を巡るツアー「Austin Duck Adventures」に参加。陸路からは毎晩ライブミュージックで賑わうことで有名な6thストリートや、目抜き通りのコングレスアベニューなどを、コロラド川からはダウンタウンをやや離れた落ち着いた雰囲気のあるウエストレイク地区を見学した。陽気なガイドの解説に耳を傾けながら、多くの観光客も参加し、明るい雰囲気のなか生徒たちはツアーを満喫した。

その後は、お洒落エリアとして有名な「サウスコンGRES地区」にて、人気のアイスクリームショップでの一休みを挟みながら、壁画アートスポットで写真撮影したり、ギフトショップやキャンディーショップでお土産を購入したり、カウボーイブーツショップを見学するなど、ローカルらしさを十分に味わう時間を過ごした。



サウスコンGRES地区にて

■ 4日目（令和5年3月28日（火））

この日の授業は後にスカベンジャーハント（与えられた課題をチームで解決する活動）で訪ねるテキサス大学オースチン校（通称：UT）について、創設年、学生数、在籍する女性比率、図書館の数、スポーツクラブの全米規模大会の優勝回数などを学ぶクイズゲームから始まった。途中、いよいよゴンザレスミドルスクールからの生徒が到着、授業に合流し、お互い初対面で緊張のなか、自己紹介をした後、簡単な質問ゲームをしながら徐々に雰囲気や和らげていった。その後、少人数グループに分かれ、大分の生徒は各ペアで前日に準備した3つの日本に関するトピックを、ゴンザレス校の生徒は自分の学校や自分の趣味について紹介し合った。互いに初



テキサス大学にて

めて知ることも多く、真剣に相手の説明に耳を傾けたり、質問したり、時には共通の趣味や話題が見つかり盛り上がる場面も見られた。互いの距離が縮まってきたところで、3~4名のグループに分かれ、いよいよUTでのスカベンジャーハントに臨んだ。各グループにキャンパスマップと課題が与えられ、指定された場所を探して写真を撮ったり、問題の答えを探すために協力し合いながらキャンパスを散策した。UTは高い教育水準を誇る州立大学であり、オースチンの街の活気、成長の速さの一因とも言われているが、短時間であったものの、それを裏付けるような充実したキャンパス施設を目にしたり、活発な雰囲気を感じることができた。生徒にとっては、たくさん話をしながらの楽しい活動であったとともに、ここで将来学びたいと思う者もいるなど、刺激的な活動になった。

授業後は、ゴンザレス校のスクールバスに乗ってレストランへ向かったが、ドラマや映画で見たことがある真黄色のスクールバスに乗ること自体が貴重な体験になった。この日の昼食はオースチンでも有名なピザレストランで、ゴンザレス校の生徒とともに、アメリカンサイズのピザを囲みながら、楽しいひと時を過ごした。



ゴンザレス校のスクールバス

午後は McCallum 高校にて、日本語授業に参加し、日本語を学ぶ生徒たちとの交流に臨んだ。まず同校の生徒 20 名ほどが一人ずつ懸命に準備したと思われる日本語での自己紹介を行うのを全員で温かく聞いた後、大分の生徒たちも日本語、英語で自己紹介を行った。そして、いよいよ大分紹介のプレゼンテーションに臨んだ。大分市の基本情報、著名人、観光スポット、グルメなど各自が担当のテーマに沿って資料を準備し、1つのプレゼンを作り上げた。準備期間が少なく、練習もなかなかできない状況で臨んだ初回のプレゼンとあって、緊張もあり、スムーズにいかない場面もあったが、教室全体が発表に温かく耳を傾け、問いかけにはしっかり反応するなどしてくれたおかげもあり、無事終えることができた。プレゼン後はグループに分かれ、McCallum 校の生徒が 6 名の各生徒に日本語で趣味や好きな食べ物など様々な質問をしていた。授業終了前には、生徒たちの案内により、日本とは全く雰囲気の異なる校舎を見学することができた。大分の生徒にとってはもちろんのことだが、快く交流を受け入れてくれた McCallum 校の生徒にとっても年の近い生徒との貴重な交流となったとともに、日本語学習へのモチベーションを高める機会になったとの声も聞かれるなど、双方にとって有意義な交流になった。



McCallum 校での集合写真

■ 5 日目 (令和 5 年 3 月 29 日 (水))

TIEC での授業の冒頭、スティーブン講師からテキサスのローカルフード「Kolache (カラチ)」(ふわふわのパン生地の中にソーセージや卵、チョコリソーなどの具を包んだ、総菜パンのようなもの)を紹介され、全員に振る舞われた。見た目以上の重さと朝食を食べたばかりとあって、なかなか口に進まない様子であった。その後の授業では hungry と angry を組み合わせた「空腹でイライラ」という意味を持つ hangry という単語を学び、どんな時に hangry になるか、hangry になったらどう



Tex-Mex を紹介する講師

する?、hangry にならない方法は?との質問に全員が英語で答えていった。アメリカ料理を紹介しながら、料理の調理手順に関するセンテンスを組み合わせるペアワークは、やや難解なものであったが、懸命に考え、講師に質問しながら解いていった結果、大きな達成感を得る生徒の姿が見られた。最後は、翌日の昼食に備えて、テキサス風にメキシコ料理をアレンジしたと言われる Tex-Mex (テックスメックス) 料理についてクイズで学んで授業を終えた。

この日の昼食は、オースチン発祥で全米に展開するオーガニック志向スーパー「Whole Foods」のフラッグシップ店にて、量り売りのデリを購入。豊富なおかずや野菜のなかから食べたいも

のを選んでボックスに詰め、重さで金額を考えながら、レジでは店員に温かく見守られながら各自が支払う体験もした。ここだけに限らないが、やはり日本とアメリカの物価の差は大きく、生徒たちも支払いの機会のたびに驚いた様子であった。

食後は、Whole Foods からダウンタウンを流れるコロラド川まで散策。コロラド川にかかる歩行者、自転車専用の橋からはダウンタウンのビル群が一望でき、平日日中にも関わらず、散歩やランニングする人も多く、リラックスできる心地よい雰囲気が漂っていた。ビルが立ち並ぶダウンタウンだが、少し歩くと緑が溢れており、これもオース



Whole Foods での昼食

チンの街が住みよいと評判な理由の一つだと散策しながら感じられた。

散策後は、いよいよ生徒たちが楽しみにしていたショッピングセンターでのショッピングの時間を迎え、集合時間、集合場所、緊急連絡などを厳守するよう伝え、2人1組での自由時間が与えられた。集合時間になると、全員が指示を守って無事戻ってきて、家族や友人へのお土産、そして服や帽子など自分へのご褒美をたくさん買った生徒もあり、満喫した様子が伺えた。



タウンレイク散策

■ 6日目（令和5年3月30日（木））

この日は再びゴンザレス校の生徒が TIEC を訪れ、彼らとともにブーロック・テキサス州立歴史博物館を訪ねた。博物館には他にもたくさんの地元の子供たちが授業の一環として訪れていた。博物館の入口にある巨大なローンスター（ひとつ星）像の前での集合写真撮影後、ここでもゴンザレス校の生徒とともに少人数のグループに分かれ、スカベンジャーハントに臨んだ。経済、革新、紛争、革命といった課題の英単語が示す展示の写真の撮ったり、課題に沿った展示物のスケッチをするなど、グループごとに協力しながら見学してまわった。限られた時間の中ではじっくり見て回ることができないくらい展示が充実しており、生徒たちは与えられた課題に臨みながら、テキサスの歴史を学ぶことができた。



博物館入口にて

見学後、Tex-Mex のレストランにてゴンザレス校の生徒とともに昼食を楽しんだ。注文したプレートが運ばれてくると、まずそのボリュームに皆圧倒された。味は豆のペーストが苦手な

どの声も聞かれたが、総じて日本人の口にも合う味であった。完食は難しい量だったが、それは現地のの人にとっても同じで、食べきれない場合は、持ち帰り用のボックスにつめて持って帰ることができることを知り、ここでも習慣の違いを一つ学ぶことができた。

食後はゴンザレスの生徒とのお別れの時間となり、過ごした時間は決して長くはなかったが、活動を通じて互いの距離を縮め、最後は連絡先を交換しながら別れを惜しむ様子が見られた。別れ

を惜しみながら、午後からは LASA 高校を訪問し、日本語を学習する生徒との交流に臨んだ。まず一人ずつ自己紹介を行ったが、20 名超の名前を覚えるのが大変そうだと察した講師の計らいにより、ゲームを通じて互いに楽しく名前を覚えることができた。その後、アイスブレイクとして「Would you rather?(どっちにする)」と題し、「食べたいのはチキン or ハンバーガー?」、「住みたいのはテキサス or 日本?」といった 2 択からの選択ゲームを行い、選択理由発表の場面では生徒たちも積極的に意見を述べていた。アイスブレイクで雰囲気や和らいだところでいよいよ 2 度目の大分紹介のプレゼンに臨んだ。McCallum 高校でのプレゼンを経たおかげで、緊張が薄れ、相手を見ながら落ち着いた様子でプレゼンを進められたように見え、LASA 高校の生徒たちもしっかり反応を示しながら興味深そうに耳を傾け、質疑応答でも積極的に質



LASA 高校でのプレゼン

問してくれた。プレゼン後は各生徒が高校生 3~4 名のグループをローテーションしながら、趣味や学校生活などいろんな話題でフリートークを楽しみ、最後に、校内を見学し、LASA 高校での交流を終えた。

McCallum 高校での交流と同じく、学習の成果を実践しながら、すぐに打ち解け合える近い世代の生徒と交流することができ、双方の生徒にとって、有意義な時間を過ごすことができた。

■ 7 日目 (令和 5 年 3 月 31 日 (金))

この日は、課外授業としてテキサス州議事堂を訪ねた。厳格な手荷物検査、ボディチェックを受け、州の中核であることを感じながら入場し、議事堂内ではベテランのガイドの案内のもと、テキサス州議会の議場や知事室、地下に広がる議員執務室などを見学した。屋外では敷地内の記念碑や慰霊碑を見学したが、その最中に警備にあたる州警察の方が生徒の求めに応じて気さくに記念撮



レストランでの集合写真



テキサス州議事堂にて

影に応じる様子も見られた。政治や歴史が絡む説明もあり、理解が難しい場面もあったが、観光スポットとしても有名であることから、オースチンのイメージとして思い描く生徒も多く、実際に目にすると、その美しさ、大きさに驚いた様子であった。



終了証を手に

議事堂見学を終え、TIEC では前日にお別れをしたゴンザレス校の生徒への Thank you letter (感謝の手紙) を書く時間が設けられた。基本的な手紙の書き方を教わりながら、各自伝えたい表現を講師に尋ねたりしながら楽しい時間を共に過ごしたゴンザレスの生徒たちへ想いを必死に伝えようとする姿が見られた。

TIEC での最後は、教室内で終了式が行われ、6名の生徒それぞれに終了証、そしてオースチン市からの名誉市民証が手渡された。TIEC での授業は、講師の創意工夫によってテキサス、オースチンらしさを感じられたり、交流、会話の機会も多く確保され、生徒にとって楽しみながら学ぶことができた5日間であった。

午後からはまずダウンタウン内のオースチン市役所を訪問し、Paige Ellis 臨時市長に訪問の挨拶を行った。Ellis 臨時市長はオースチン市の第8区選出の市議会議員として活動されており、生徒にも日ごろの活動内容や専門とする分野などを丁寧に説明してくれた。生徒の自己紹介にもやさしく耳を傾け、生徒からの趣味や好きな食べ物といった質問にも明るく答えてくれた。短い時間ではあったが、挨拶と同時に、姉妹都市委員会クリスティ会長とともに、今後の交流への理解と協力をお願いする重要な機会となった。



Paige Ellis 臨時市長訪問



裁判所にてジョーンズ判事と

市役所の次に、トラビス群民事家庭裁判所を訪ねた。この裁判所で判事を務めるジョーンズさんが姉妹都市委員会のメンバーであることから訪問が実現し、新しくなったばかりのまっさらな施設をジョーンズ判事が案内してくれた。普段映画やドラマで見るような法廷に備わる最新のテクノロジーを披露してくれたり、実際に木槌(ギャベル)を叩かせてもらったり、判事の執務室にお邪魔させていただくなど、普段できないような経験に生徒はみな興奮した様子であった。

■ 8日目（令和5年4月1日（土））

各自、ハイキングやショッピング、食事など終日、ホストファミリーと過ごす最後の一日を満喫した。

■ 9日目（令和5年4月2日（日））

オースチン郊外のBBQレストラン「The Salt Lick BBQ」にて、姉妹都市委員会のメンバーとホストファミリーが参加し送別会が開かれた。会の冒頭に参加者全員が今回の交流について一言述べる場が設けられ、生徒からは楽しかった思い出を振り返りながら感謝の言葉を述べ、快く生徒を受け入れてくれたホストファミリーの皆さんからもポジティブな感想が多く聞かれ、しみじみとしながらあっという間に過ぎたオースチンでの時間を振り返った。その後は、ブリスケットやポークリブ、ソーセージなど次々に運



テキサス BBQ プレート



送別会の様子

ばれてくる本格的なテキサスBBQに舌鼓を打ちながら、ホストファミリーや姉妹都市委員会のメンバーたちとオースチンでの最後の時間を過ごした。そして、いよいよ別れの時を迎えると、生徒だけでなくホストファミリーも一緒に涙を流しながら別れを惜しむ姿も見られたが、最後は笑顔で再会を誓いながらの別れとなった。

その後、ダラスへ向かう道中、往路でも立ち寄った「Buc-ee's」にて最後のお土産探しをしつつこの日の夕食を調達し、4時間のバス移動を経て、ダラス空港隣接のホテルに到着した。帰国に必要な書類等の確認を済ませ、早めに就寝し翌日の長時間の移動に備えた。



送別会後の集合写真

■ 10日目（令和5年4月3日（月））、11日目（令和5年4月4日（火））

ホテルでの朝食を終え、ホテルチェックアウト後、空港に向かい、カウンターにてサポートいただきながら、無事にチェックイン、手荷物預け手続きを終えることができた。やや時間を要しながらセキュリティチェックを通過すると、あっという間に帰国便搭乗の時間を迎えた。



ダラス空港にて

約13時間の長時間フライトを経て、羽田空港に無事到着した。楽しく充実したアメリカでの生活から日本への帰国に複雑な気持ちを抱きながらも、無事の帰国に生徒からは安心した表情も見られた。帰国手続

き、国内線への乗り継ぎ手続きを済ませると、僅かなターミナル散策時間を過ごした後、定刻通り大分便への搭乗を迎えた。約2時間の国内線後、ようやく大分空港に到着する頃には生徒たちの疲労の様子が見て取れ、空港から保護者が待つ市役所までのバスのなかでは全員が泥のように眠って過ごしていた。そして、いよいよ市役所に到着すると、たくさんの親、兄弟姉妹に迎えられ、全員そろっての無事の帰郷に、その場にいた全員が胸をなでおろしたように感じられた。多くの方々に支えられ、多くを学び、多くの経験を積むことができ、長いようであったという間の充実した9泊11日間であった。

オースチン市派遣事業を振り返って

岩田中学校 1年 原 亮慶

私は、国際的な視野を広げることを主な目標として今回のオースチン派遣事業に参加しました。今回の派遣事業では、現地ではホームステイによる滞在をし、ホストファミリーの方々と接し、課外活動では、現地の学生たち（マッカラム高校、ラサ高校、ゴンザレス学校）と交流しながら、オースチンの街並み、人を感じ、文化や風習を知ることができました。その過程で私は国際的な視野を広げるという自らの目標を達成することができました。他にも現地での友人を多く作ることができたり、今まで知らなかったことを今回知ることができたりなど様々なことを経験できたと思います。



今回のオースチン派遣事業での思い出に残ったことそして印象に残ったことは、主に2つあります。まず1つは何もかも大きいということです。左の写真をまず見てください。このピザは一切れで何センチあると思いますか？10センチ？15センチ？実はこのピザ、なんと1切れだけで大体20センチほどあるんです！他にも建物や車はもちろんのこと道路の標識までもがオースチンでは大きかったです。

そして2つ目は、オースチンでの現地学生との交流です。右の写真は現地のゴンザレス学校の学生たちと交流した時の写真です。ゴンザレス学校との交流ではテキサス大学にてスカベンジャーハントをしピザを食べたり、他にもブロック・テキサス州立歴史博物館を訪問し、その後一緒にTex-Mex（テキサス州のアメリカ風メキシコ料理）を食べたりしたりなど、とても楽しい時間を共に過ごしました！また他にもゴンザレス学校以外では、ラサ高校やマッカラム高校へ訪問をしたりしました。ラサ高校では日本語で森林現象についての問題点などについて授業をしており、とても驚きました。そして何より今回出会った人たちは全員明るく面白かったのでとても素晴らしい時間が過ごせました！



私は今後、今回の経験を通し学んだことや感じたことを自らの知識として定着させ、将来のために生かしていきたいと思います。

オースチンでの 11 日間

大分市立上野ヶ丘中学校 1年 関 理彩子

私はこれまで、海外へ行ったことが一度もありませんでした。私の英語で会話が成り立つのか、ホストファミリーのもと、アメリカの生活様式で普通に過ごせるのか、不安もありましたが全てが新鮮で、貴重な体験をたくさんすることができました。このオースチンでの11日間は私にとって生涯の宝になると思います。今回の私の一番の目標は、“積極的にコミュニケーションをとること”でした。うまく話せていなかったり、間違ったりも多かったと思いますが、ホストファミリーがいつも優しく接してくれ、また話を聞いてくれたおかげで百点満点とは言えませんが、この目標は達成できたと思います。クリスティーさんは、アメリカについて色々なことを教えてくれました。ファミリーとして接してくれて、別れるときには、とても寂しい気持ちになりました。今度、再会する時まで、自分の思いをそのまま伝えられるくらいに英語力を上げたい



と思います。英語の本・鳥図鑑・難しい文献も読めるようになりたいです。

このオースチン派遣事業で特に印象に残ったことは、マッカラム高校・ラサ高校の訪問・交流です。高校では、日本語と英語の両方を使って話をしました。アメリカの高校生はとても日本語が上手く、私ももっと英語を頑張ろうと思いました。学校も広くて様々な国の人たちが学んでいて、多種多様な人種の人と一緒に学んでいる様子に世界は広いけれど垣根はないんだと感じました。大分のプレゼンテーションでは、英語で伝えることの難しさを感じ、何度も考え練習しました。とても緊張しましたが、一緒に行った6人で成功させることができとてもうれしかったです。アメリカの文化に触れ日本や大分の良さについても改めて気づくことができました。

今の私には、自然・環境について学びたいという将来の夢があります。特に鳥類の生態について研究したいです。オースチンは、IT・音楽産業が盛んで大都市であるにも関わらず、自然豊かで緑も多く、動物・鳥・人が共生しています。とても素晴らしい環境でした。街中でコンドルが飛んでいたこと、日本ではなかなか見ることのできない鳥たちに出会えたこと……。将来の夢への意欲がわきました。

最後に、ホストファミリーのクリスティーさん、スティーブンさん、パーカーくん、一緒にオースチンに行った6人の仲間、吉川さん、森竹先生、姉妹都市委員会のみなさん、お世話して下さった全ての方々に、心から感謝します。その感謝の気持ちを忘れずに、日本と海外、大分とオースチンを繋げることのできる、国際人になりたいです。

Thank you! I want to visit Austin again!



オースチンでの思い出

大分大学教育学部附属中学校 2年 伊藤優里

私がこの事業に参加したいと思ったきっかけは海外の人の生活スタイルを知りたいと思ったからです。ホームステイをすれば現地の人の日常生活を見ることができると思いました。

実際に行ってみて受けた印象はみんなすごく明るくて社交的だということです。初日にあったウェルカムパーティーではすごく緊張していた私に現地の方が笑顔でたくさん話しかけてくれて緊張がほぐれました。

また、道ですれ違った人が話しかけてくれたり服を褒めてくれたりして、とても明るい気持ちになったことも印象に残っています。一緒に撮った写真を見返すと、現地の人は笑顔がすごくキラキラしていて、自分に自信を持っているからこそ知らない人にもフレンドリーに接することができるのではないかと思います。



私がオースチンに滞在している間で一番思い出に残っていることはホストファミリーと過ごした放課後の時間です。

地元の人が利用する映画館やレストランに連れて行ってもらったり、スーパーで買い物をしたりしました。それにより、旅行に行っただけではできないアメリカの日常生活を体験することができ、たくさんの「初めて」を経験させてもらいました。どこにも行かない日でも家で一緒にディナーを作ったり、犬の散歩に行ったり、アニメを見たりしながらその日の出来事について話すことで、ホストファミリーとの仲を深めることができました。

また、その会話の中で学校や塾では習わないような単語を教わったのも新鮮でした。初めのうちは少しホームシックにもなったけれど、積極的に話すようにして最後は別れるのが辛くなるくらい絆を深めることができました

このオースチンに滞在した期間で英語力が伸びたかと言われると、自信をもって伸びたとは言えません。流暢に喋ることができるようになったわけではないし、なんでも聞き取れるようになったわけでもありません。しかし、周りに日本語を話せる人がいないときに自分で問題を解決する力はついたと思います。この力を活かしてもう一度留学して、よりグローバルな考えを持てるようになっていきたいです。



オースチン大好き！

大分市立大分西中学校 2年 甲斐 琴子

私は、自分の英語力の向上と、異文化を自ら感じ、将来につなげることを目標として、この事業に参加しました。実際に行ってみると、今まで日本で勉強してきた英語が少ししか通用せず、まだまだだなと思いました。発音、スピード、間の取り方など、ネイティブの英語は全然違うなと感じました。また、声の大きさ、笑いのツボなどもまるで日本と違って、オースチンに行かなければできない貴重な体験をすることができました。



印象に残ったことは主に3つあります。一つ目は、食事です。行く前からアメリカの主な食事はジャンクフードというイメージがありましたが、実際に行ってみると、毎日のように肉、ピザ、アイスなど、とにかく味の濃く量が多いものばかりでした。私はもともと、アメリカンな食べ物が好きだったので、毎日おいしいものを食べることで幸せでした。



二つ目は、人です。アメリカでは、買い物のお会計の時や、飲食店で食べ物を注文するときなど、必ず店員さんが「Have a nice day」と言ってくれます。また、町ゆく人に「Hello」などと声をかけると、優しく楽しく会話をしてくれます。全員とは限らないけど、多くの人がフレンドリーで話しやすく、コミュニケーションの取り方がすごく上手だなと思いました。自己紹介をしたり日本のことについて話すと、興味津々で聞いてくれ

て、とても嬉しかったです。アメリカ人と話していると、次から次に話題が出てきて楽しかったし、コミュニケーションの取り方の勉強になりました。

三つ目は、街並みです。日本は落ち着いた景観でシンプルなデザインの建物が多いですが、オースチンでは、町がカラフルに彩られていて、思わず写真を撮りたくなるようなお店や看板ばかりでした。また、ホームステイ先の家もそうでしたが、家が大きくて、道路が左車線など、びっくりすることがたくさんありました。



私は今回の派遣で、行く前よりも、もっと国際的な仕事に就きたいという夢が大きくなりました。例えば、通訳やキャビンアテンダントや英語教師などです。異文化を自分自身で感じたことにより、普段味わえない貴重な体験ができました。

今回の事業で学んだことを、これからの英語学習、異文化交流、将来の夢につなげていきたいと思います。また、オースチンで学んだことを学校で発表することにもなったので、この経験をみんなに伝えて、海外に興味を持つ人が増えればいいなと思います。

アメリカ派遣によって得たこと、感じたこと

大分大学教育学部附属中学校 2年 中川大地

僕はアメリカの生活を体験することで日本とアメリカの違いを多角的な面で捉えられるようになりたいと思ってこの活動に参加した。これから「この派遣事業で体験したアメリカのこと」の二つを述べていきたいと思う。

まずはアメリカと日本の違いについて、僕が感じた違いは大きく分けて2つある。1つめは町の人々の様子についてだ。アメリカに到着して最初にホストファミリーとスーパーマーケットに訪れた際、突然ホストファミリーがお客さんと話し始めた。僕がこの人は知っている人ですか？と尋ねると全く知らない人だと言う。僕はこの光景を見て度肝を抜かれた。日本では到底考えられない。このようなことから日本とアメリカの町の雰囲気の違い、人々の社交性の違いを痛感することが出来た。

2つめはネイティブの英語についてだ。正直英語には自信があり、どこまで通用するかが楽しみだったが、日本で聞いている英語とは速さ、発音、訛りなどすべてが異なっていた。そのため、相手の言っていることがよくわからない場面が多々あった。しかし洋画や洋楽などを自主的に見たり聞いたりしてネイティブの英語に慣れることで十分対応できる英語力を身につけることが出来ると思う。そのようにして英語力を培った後、その英語がネイティブに通じた瞬間が最も嬉しいということは自信を持って言える。

総じて言えることとして、この派遣事業はとても貴重な経験になるということだ。英語力向上はもちろんのこと、人としても成長することが出来ると思う。簡単にいうとアメリカにいる間は自分との戦い。スマホを触っていれば実のない、飛行機に乗って帰るだけの10日間になる。しかし、このようなことを避けるためにホストファミリーや街の人に勇気を出して話しかける必要がある。つまり、アメリカでは自分の行動力すべてだということだ。そ



のような点で自分の行動力や主体性、メンタルなどを向上させる事が出来ると思う。なので僕はこの派遣事業で身につけた行動力や主体性を駆使して自らみんなの前にたつようなことをしていこうと思った。実際に現在、令和5年度の附属中学校の体育大会の実行委員長を務めている。そのほかにもこれから将来にかけて人前に立って様々なことをしていこうと考えている。

オースチンで学んだこと

大分市立王子中学校 2年 井上 小夏晴

私は、今回のオースチン派遣事業に、『生きた英語にたくさん触れ、思っていることを英語で伝えられるようになる!』という目標をもって参加しました。大分で5年以上英語を学習してきましたが、まだまだ思っていることを直ぐに英語で言葉に出すことは難しく、戸惑うことが多々あります。短い期間ですが、日常会話での受け答えが少しでもスムーズに出来ればいいなと感じていたからです。



実際に行ってみて感じたのは、やっぱりアメリカと日本では色々な事が大きく違うということです。当たり前ですが食べ物・生活習慣・考え方・感じ方が大きく異なることを実体験することが出来ました。食べ物で言うと、ハンバーガー・ステーキ・ピザ・アイスにジュースです。“日本では時々食べる”ようなものが毎食出てきて驚きました。(毎食だと食べるのが辛い時も…。) また、会う人会う人皆が明るく楽しくユーモアのある人ばかりで、話していてとても元気をもらいました。日本では毎日マスクをして“疲れたな…”



という事ばかりに目を向けていた私ですが、アメリカではマスクを外した解放感の中、“あれが出来ないこれも出来ない”となげいているより“その中で自分はどう楽しむか”が大切なんだと教えてもらったような気がします。

今回、数えきれないほどの思い出ができましたが、その中で特に心に残っているものが、日本語を学んでいるマッカラム高校とラサ高校の学生達との交流で

す。PowerPointを用いて、英語で大分市の魅力を伝えました。この大分市紹介のPowerPointは、日本にいる1月ごろから作成を進めていたものでした。その成果が発揮でき、うれしかったです。やはり、ここの学生も元気が良く、盛り上げ上手で楽しい雰囲気の中発表する事が出来ました。少し緊張はしましたが、それ以上に“初対面の人、それも外国の人に、英語で発表できた!”という体験が大きな自信になりました。また、現地の中学生とも交流ができ、その中でオリビアという友達も出来ました。

「英語で思っていることを伝えられるようになる」という目標をもつてのぞんだ派遣事業。実際に行ってみて、その難しさを改めて感じました。「もう一度言ってください」と言うことも多々ありました。ですが、そのなかでも、自分の知っている単語やジェスチャーを使って、なんとか伝えようとする事ができました。それに、“伝えたいことが100%伝えられる”ことよりも、“伝えようとする気持ち”のほうが大切なんだと気づかされました。今回、たくさんの人と交流するなかで、知識として知っていたつもりだった「世界は広くて、いろんな考え方がある」ことを肌で感じる事ができました。これからの物事のとらえ方が大きく変わりそうです。



引率者報告

大分市企画部国際課 吉川 貴裕

大分市教育委員会 学校教育課英語教育推進室 森竹 友恵

この事業は令和2年度に姉妹都市提携30周年を機に実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により延期を余儀なくされました。そして今回、コロナの状況を注視し、必要な対策を講じながら、多くの方々の理解、協力があって、とうとう実施することができました。前回大分市からオースチン市へ中学生を派遣したのは1993年。30年ぶりの派遣となりました。



現地では、オースチン大分姉妹都市委員会やホストファミリーの方々が仕事や家庭の時間を割いて、事前の入念な準備、調整から、現地での活動案内、送迎、食事の提供に至るまで、活動を全面的にサポートしていただきました。こうした支えがあったおかげで、生徒たちはオースチンで充実した時間を過ごすことができました。

当初は、緊張した面持ちも見られ、慣れない環境や英語でのコミュニケーションを心配しながら生徒の様子を窺っていましたが、すぐに各々が好奇心旺盛に積極的に日々の活動に臨む姿を見せてくれ、心配は杞憂に終わりました。特に現地の中高生との交流時の、失敗を恐れず、楽しみながら友好を深めていく姿はとても印象的でした。交流を通じて感じた英語を使って意思疎通する面白さや奥深さ、思い通りに思ったことを伝えられなかった悔しさは、今後の英語学習へのモチベーションを大きく刺激したかと思います。五感で感じたアメリカの文化や風習、ホストファミリーや現地の生徒と過ごした時間は一生忘れることはないでしょう。参加した6名には、今回の経験をただ楽しいだけの思い出に終わらせるのではなく、どう活かしていくのかをしっかりと考え、それを糧にして、今後の飛躍に繋げるとともに、周囲にも伝えながら還元してくれることを期待しています。

最後に、派遣を無事に終え、充実した日々を過ごすことができたのは、この事業を支えてくれた多くの方々のおかげであり、心から感謝しています。特に、現地においては、オースチン大分姉妹都市委員会やホストファミリーの皆さんが常に温かいホスピタリティ精神をもって私たちに接してくれました。これは決して当たり前のことではなく、長年積み重ねてきた姉妹都市の信頼関係があったからこそのものであると感じました。そして、そうした背景があって今回のような交流を行うことができることこそ姉妹都市である意義だと実感しました。今後も出来得る限り今回のような事業を実施していきながら、グローバル人材の育成を目指していくとともに、オースチン市との友好親善をより深めていけるよう努めていきたいと思っています。